

八代市男女共同参画推進情報誌

Mi★Rai みらい

男女が共に生き生きと暮らせる社会づくりを目指して

第5号



東陽校区住民参加型防災訓練
(H20年6月)

総合防災訓練 (H20年5月)

平成十二年に八代市消防団女性消防隊が結成され、現在二十七名の隊員が在籍し、消防署員と一緒にひとり暮らしの高齢者宅を訪ねて防火診断をしたり、防火意識の啓発・広報などの活動をしています。

男女を問わず、土のう積み訓練・初期消火訓練(バケツリレー、消火器の使い方)・救命救急訓練などにたくさんの方が参加され、住民の防災意識と共に支え合う関係が深まっているようです。

「自分たちのまちは自分たちで守る」を合言葉に各地域で住民参加型防災訓練が行われるなど、新たな分野での女性の視点をいかした地域活動が注目されています。

CONTENTS

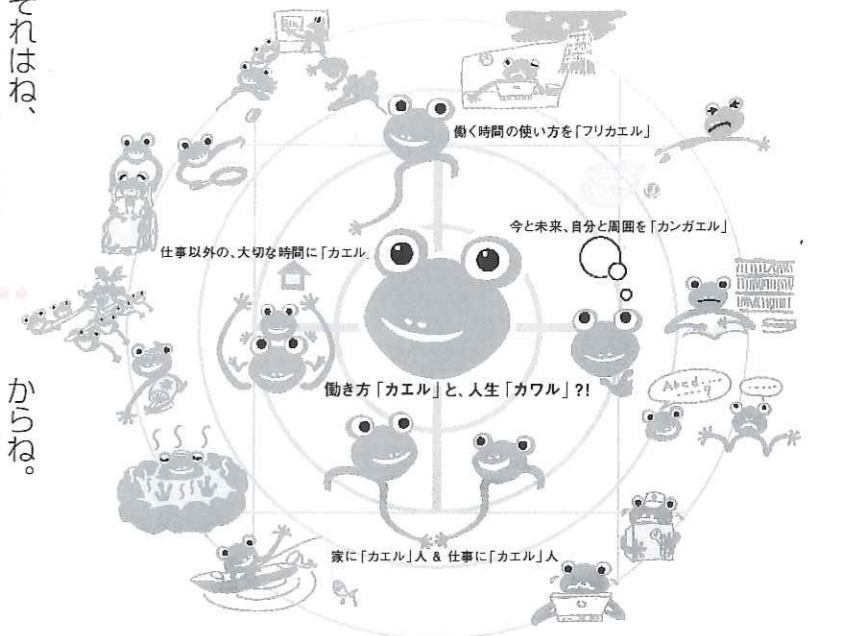
・ワーク・ライフ・
バランスのすすめ

・DVってなあに
お知らせ

ステップアップセミナー
いっそDEフェスタ2009
ジェンダー紙芝居

ひとつ「働き方」を変えてみよう! カエル! ジャパン Change! JPN

「ワーク・ライフ・バランス」って何?



いま、ワーク・ライフ・バランス (仕事と生活の調和) のすすめ、 はじまっています!

- ・仕事に追われて、家事、子育て、地域活動など仕事以外の活動がおろそかになっていませんか?
- ・家事、育児、介護等に追われて、自分の時間がないと悩んでいませんか?

それはね、
どんな人でも仕事・家庭生活・地域活動・個人の自己啓発など、いろいろな活動を自分の希望するバランスで実現できる状態なんだ。子育て期の女性のためのものかと思っただけ。いや、独身の人や子育て期の男性、介護をする人や地域活動、自己啓発をしたい人、高齢者、障がいのある人など、あらゆる人たちのためのものなんだ。じゃあ、年齢も関係ないの? そうだよ。仕事や子育て、介護、自己啓発などの大切さは、人生の段階や個人の事情や希望により変わるものだからね。

誰もが個人の判断で、自分の希望するバランスを決めることができるものなんだ。これって、仕事を減らす事なのかな? そうではなく、働き方の見直しで仕事の効率が高まり時間的余裕ができることで、仕事以外の生活が充実するんだ。その結果、意欲や創造性が高まって、仕事の充実につながるから、両方が良い環境になるんだよ。女性だけではなく、男性もバランスのとれた生活を送れると、一緒に送るべきな人生が送れそうだね。

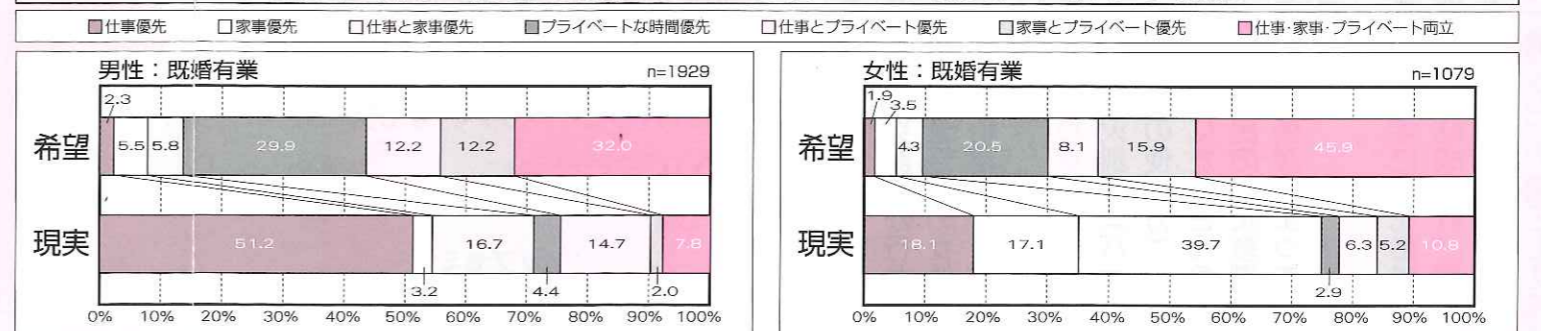
なぜ、今、仕事と生活の調和が必要なのでしょう?

共働き世帯の増加、内外の競争の激化、時代の変化に対応していない働き方などを背景として、仕事と生活の調和がとれず問題を抱える人が多くみられます。働き方や意識が変わり、共働き世帯が多くなって「夫が外で働き、妻は家庭を守るべきだ。」という考え方に反対の人が増えていきます。しかし、現実には女性が状況に合わせて、希望にあった仕事に就くことは、依然として家庭で担う役割が多く困難です。下図のように働き方の希望と現実にも差があります。特に、男性は労働時間が長時間にわたり、やりたいことがあっても仕事が優先され、家事・育児・地域活動などに思うように関われない状況です。

また、残業が多いと、仕事で疲れて退社後何もやる気になれないなど、心身の健康にも悪影響を及ぼします。

実際には、ワーク・ライフ・バランスがとれていると思う人が、仕事への意欲も高いようです。

仕事以外の活動を優先したいと思っても現実には仕事が優先



(参考: 「仕事と生活の調和の実現に向けて」 内閣府 仕事と生活の調和推進室/男女共同参画局 より)



米田 政徳さん (44歳)

妻・子ども・両親の7人家族。郡築で米・キャベツ・白菜などを栽培する農家です。「天候が相手の仕事なので時間を作るのが難しいですが、自分の生活のリズムを作ってしまうと意外と楽です。」とおっしゃる政徳さんは、小学校の剣道部の指導者・あったかハートふれあい劇団の団員として活動され、PTAの読み聞かせにはご夫婦で関わっていらつしやいます。

「農業以外の人との出会い・交流で視野が広がるし、多様な価値観を持っている人との出会いも面白いです。」「出産と授乳以外なら何でもします。」ときっぱり。

妻の奈穂美さんも、週1〜2回ママさんバレーでリフレッシュ。「自分も好きなことをさせてもらっていますので・・・」と、女性はあまりしないというトラクターの操作も習って、夫の不在時は仕事をサポートされています。「メリハリのある生活の方がいいです。楽しみがあるから、逆に仕事も頑張れます。」とご夫婦揃って力強く話してくださいました。

ワーク・ライフ・バランス

「介護ばかり」「趣味ばかり」・・・そんな人生でいいの? や世代を超えて、ワーク・ライフ・バランスの実現が目指されるようになりました。その実現度は?



和久田 静夫さん (60歳)

和久田さんは熊本県指定重要無形民俗文化財の植柳盆踊り保存会で「口説き」として活躍中です。まだ五年のキャリアと謙遜されますが、子どもさんも踊り手として、お孫さんも口説き・踊り手として、五世代にわたって関わっていられます。盆踊りを通して少しでも地域のお役に立つことが出来ればと話してくださいました。

また、ご自身の親の介護にも夫婦二人で携わっておられます。「症状の進行も気になるし、母が妻の顔を見ると嬉しそうにするものですか。」と一日おきに施設に出かけられるとか。週五日勤務の仕事とはいえ、平日は就業後の訪問になります。そんなお二人は、施設の方にもほほえましく映っています。

妻のすえ子さんは「長男の嫁」として「親の介護は当たり前。仕事を辞めて自分が介護する。」と考えたこともあったとか。結局、夫婦でよく話し合い、施設にお世話になることを選択されました。定年後はより積極的に親の介護に関わり、「自宅で生活する時間をふやしてやりたい。」とお話でした。



二見 孝一さん
(44歳)

二見孝一さんは妻と子どもとの6人家族で、熊本市内のコンピュータ関係の会社にお勤めです。二見さんは会社の仕事以外に多くの市民グループやNPOに関わり「環境と平和」をキーワードに、多忙な毎日を送っておられます。例えば次世代を担う若手グループを立ち上げたり、自治体の環境政策コンテストの審査員を務めたり、環境講演会の開催や国際交流や農業体験のイベント企画など精力的に活動していらっしゃいます。

ボランティアの活動ですが、次世代に平和で豊かな社会を残すための出費や労力は親として当たり前のことと言われます。

「正直、家事は妻まかせです。私は壊れた家具や電化製品の修理と畑仕事ぐらいかな。」

普段あまり子どもたちと関われない分、休日是一緒に山登りや釣りなど自然の中で思いっきり遊んで、家族とのふれあいを大切にしていきます。そうです。「活動を寛大に見守ってくれている家族にはとても感謝しています。」と結ばれました。



私のワーク・ライフ

「仕事ばかり」「勉強ばかり」「家事育児ばかり」最近では、働き方の見直しが行われるようになり、性別
今回、4人の方にお話を伺いました。あなたの balan



西 哲央さん
(34歳)

妻、子どもの5人家族、ご夫婦とも学校の先生です。西さんは去年の4月から5ヶ月間、育児休業を取られました。妻の勤務先が遠くなり、長男も小学校入学を控え、誰もが新しい環境に不安を抱えていたからです。

「育児があるのは知っていましたが、男性も取れることを同僚から初めて聞き、思い切って申請しました。育児の間に、それ以降の家族全員の生活のリズムを作ることを目標にしました。」ときっかけを話してくださいました。

学校に慣れない長男と毎朝登校し、家事をこなし、何より子どもたちと深く関わることで、思いがけない発見がたくさんあったことがとてもうれしかったそうです。

「家事は単調な作業の繰り返しでなかなか達成感が得られなかった。」と西さん。しかし、そのおかげで妻の大変さもわかり、仕事の素晴らしさにも気づかれたようです。

育児を取ったことに対する職場の人たちの反応も良く、復帰後、ますます仕事への意欲も高まったそうです。

身近なDVに気付いていますか？



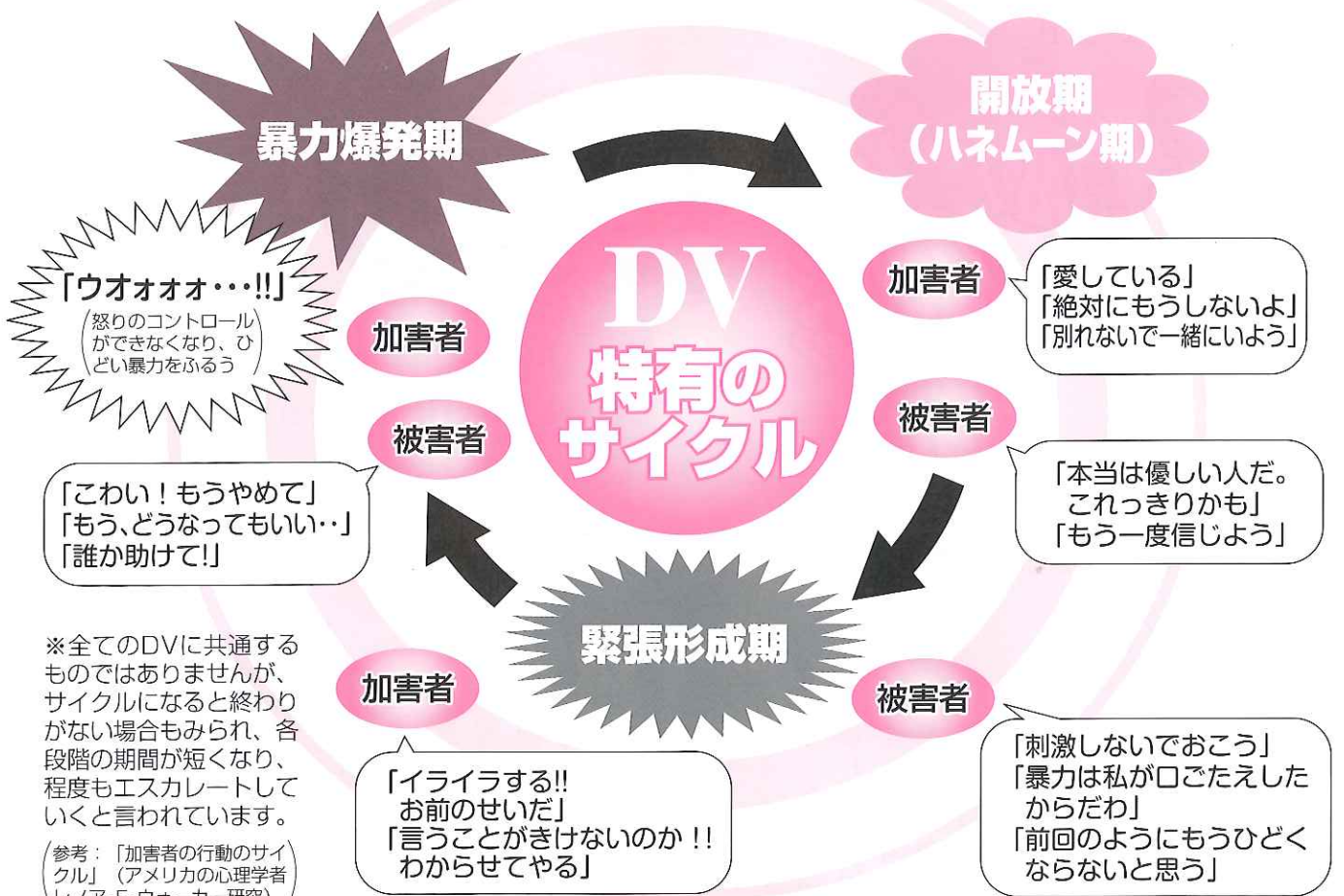
女性に対する暴力根絶のためのシンボルマーク

「DV」はドメスティック・バイオレンスの略です。配偶者またはパートナーなど身近な人から受ける暴力のことです。

国の統計によると女性の3人に1人が、暴力を受けています。自分にも原因があるのではと思いつき、被害者がDVと気付かなかったり、言葉やあざが残らない暴力で、周りが気付かない場合も見られます。また最近では、若い人の間でデートDV（結婚していない交際の男女間で起こる暴力）が問題となってきました。

DVは「犯罪」であり、社会全体で解決しなければならぬ問題です。

暴力の種類	
身体的暴力	殴る・蹴る・首をしめる・物を投げる・刃物で脅す・煙草の火を押し付ける など
精神的暴力	馬鹿にする・無視する・大事な物を壊す、捨てる・交友関係を制限する など
性的暴力	性的行為を強要する・避妊に協力しない・中絶をさせる・性的な雑誌やビデオをみせる など
その他	生活費を渡さない・外で働くことを制限する・子どもに危害を加えると言って脅す・子どもに悪口をふきこむ など



※全てのDVに共通するものではありませんが、サイクルになると終わりがなくもみられ、各段階の期間が短くなり、程度もエスカレートしていくとされています。

(参考: 「加害者の行動のサイクル」(アメリカの心理学者レノア・E・ウォーカー研究))

相談機関

八代市市民相談室
0965-33-4452

熊本県女性相談センター
(配偶者暴力相談支援センター)
096-381-7110

- DV**
チェックリスト
- しょっちゅう携帯に電話して、私の居場所を確認する
 - 「誰に食わせてもらっているんだ」と言われたことがある
 - 人前でも平気で私をバカにする
 - 「バカ」とか「死ね」と言われたことがある
 - 私が言うとおりにしないと不機嫌になる
 - お金の使い途を細かくチェックされる
 - 私が望まない性行為を強要する
 - 生活費しか渡さず、収入がいくらあるのか教えてくれない
 - 何をすることも彼の許可が要る
 - 私が話をする、非難したり、無視したりする
 - 私が働くことに、いい顔をしない

※参考資料県発行DV啓発冊子「Stop! DV」や県内相談機関掲載のDV相談「携帯カード」は市人権政策課男女共同参画推進室にも備え付けてあります。

女性のためのステップアップセミナー

「その気になれる。プラス思考講座」

☆自分らしく生きるために、拓け、新たな可能性☆

今年も、10月2日から11月26日まで、ステップアップセミナーが5回にわたり、行われました。

今回は、「その気になれる。プラス思考講座」と銘打ち、「塩が縁を呼ぶくわたりが起業した理由」「ちよつと素敵に話ができるコミュニケーション講座1・2」「女性を活かすく男女共同参画推進事業者表彰を受けて」「ストレスフリー大作戦！」といった講座が開かれました。

定員40名を超える申し込みがあり、最終的に65名の受講者があった今回のセミナー。初めての、そして若い世代の参加者が目立ちました。会場は、より素敵な人になりたいと思う女性であふれていました。

この講演の中で、「自分にはできないといつも尻込みしているといつまでも緊張するし、思い切って一歩前へ出てみよう。そこに新しい出会いがあり、人生を新しく開けるかもしれない」「会話の基本であるお互いが共に心地よい関係であるためには、「話し



上手は聞き上手』を実践すること」など気づかされることもたくさんありました。このセミナーを、5回すべて受講された方は、女性人材リストに登録されます。自分自身を高めるだけでなく、是非、その力を外で発揮していただきたいものです。同時に、このような素晴らしい人材を埋もれさせることなく、八代のために活躍していただける場面を増やしていけば、未来は明るいと感じました。

お・知・ら・せ / INFORMATION

紙芝居持って出向きます
呼んでください！

八代みらいネットではジェンダー紙芝居「家事は誰の仕事・あなたは大丈夫？」の出前講座を行っています。老人会、いきいきサロン、PTAや婦人会など、どこへでも伺います。ご活用ください。



ひとりで悩んでいませんか？
セクハラ・DVなどの悩み、相談してください

夫や恋人からの暴力、職場のセクシュアル・ハラスメントなどで悩んでいる人は、男女共同参画専門委員(臨床心理士・弁護士)に相談することができます。また、男女共同参画の推進を阻害する市の施策や事業に関して、男女共同参画専門委員に苦情を申し立てすることができます。



いっそDEフェスタ2009

(日時) 平成21年1月25日(日)
13:30~開演
(場所) やつしろハーモニーホール
市民ホール
(内容)
○オープニング: 寸劇
○講演「身近な生活笑百科
~心豊かに女と男~」
講師 三瀬 顕 さん(弁護士)
(NHKバラエティー生活笑百科)レギュラー出演)
・気さくな語り口で三瀬さんが夫婦円満のコツなど分かりやすくお話しされます。
(入場料) 無料
(託児) 要予約
(6か月以上就学前)



編集後記

○「ワーク・ライフ・バランス」初めて聞きました。資料を読んで勉強しました。やっぱりマダムに納まってちゃダメかしらね。

○子育てと仕事に、突然親の介護も加わった。東奔西走の数年間！現在、趣味にどっぷり。これでバランス取れるの？

○私って本当は専業主婦なんだけど、趣味や活動に忙しくしてる間に、家事を夫に取られ、すっかり半業主婦に。主婦危うし！

○生活の中でも「やらなくてはならないこと」と「やりたいこと」のバランスをとっていかれたらいいなあ

○私の場合、ワークよりライフ。今や、ワークだけの人生は考え難い。でも、充実感までマンネリ!?さあ、食うためにもっとワークするぞお！

【編集スタッフ】

賀久小夜子・可徳陽子
古閑啓子・穂波敬子
増田真弓